

▶設置に至る経緯について

▶校舎位置等について

▶機能について

- ・設置形態、学校名
- ・入学対象者、修業年限
- ・学校生活 など

(3)

基本計画（素案）について③

設置主体：北九州市

設置形態・学校名：必要に応じ公募を検討

・ **単独校「北九州市立<新校名>中学校」**

福岡市立福岡きぼう中学校

・ **分校「北九州市立<既存校名>中学校●●分校」**

神戸市立兵庫中学校北分校 松戸市立第一中学校みらい分校

・ **夜間学級「北九州市立<既存校名>中学校夜間学級」**

大阪市立天王寺中学校夜間学級

機能等①

入学対象者

北九州市民 + 北九州市と連携する自治体在住者（要協議）

学齢期を過ぎた人で、夜間中学での学びを希望する人

国籍は問わない

入学時期

年2回（春・秋）入学可 相談・見学は随時

入学までの流れ

見学・体験入学 ⇒ 願書提出 ⇒ 個別面談 ⇒ 入学決定

機能等②

規模・定員

開校時30人規模を想定 定員は設けない
(施設整備の間、お待ちいただく場合あり)

授業方法

対面を基本とするが、オンライン授業も活用する

平日5日間、1日4コマの授業 時間割は今後検討

費用負担

授業料は無料 教科書も無償で配布

機能等③

進級

面談を実施し、本人の意向を踏まえ校長が判断

修業年限

原則は3年だが、1年ごとの延長を可とする

上限年数は、今後の検討課題とする

卒業

学習履歴と本人の意向を踏まえ、校長が判断

機能等④

日本語指導

日本語での教科学習のため、日本語指導を行う

進路指導

卒業後の進学や就職に向けた進路指導を行う

就学支援

経済的な事情などで就学が困難な生徒に対し

就学援助と同様の制度新設を検討する

機能等⑤

自治体名	就学支援の状況	自治体名	就学支援の状況
札幌市 ○	学用品・校外活動・修学旅行・給食 通学	堺市 ○	学用品・校外活動・修学旅行・通学
横浜市 ×	なし	大阪市 ○	学用品・校外活動・修学旅行・通学
川崎市 ○	学用品・校外活動・医療・通学	神戸市 ○	学用品・校外活動・修学旅行・通学
相模原市 ○	学用品・通学	広島市 ○	学用品・校外活動・入学準備・修学 旅行・給食・医療
京都市 ○	学用品・校外活動・入学準備・修学旅 行・給食・医療・通学	福岡市 ○	学用品・校外活動・修学旅行・医 療・通学・オンライン通信

<補足> 就学支援

学校運営

学校運営協議会等を活用し、学校運営の改善を図る

通学方法

公共交通機関を利用しての通学を基本とする

学校給食

多様な生徒が対象となるため、開校時点では
実施しない ～ 生徒の状況を見て検討する

機能等⑥

自治体名	学校給食の状況	自治体名	学校給食の状況
札幌市 ○	仕出し弁当（全員）	堺市 ○	パンと牛乳（選択） 事前申込み制ではない
横浜市 ×	なし	大阪市 ×	なし
川崎市 ×	補食としてパンと牛乳を希望者に配布 （生徒が実費負担）	神戸市 ○	仕出し弁当・牛乳 希望者からの申込制
相模原市 ×	なし	広島市 ×	なし
京都市 ○	仕出し弁当 希望者からの申込制	福岡市 ×	なし

<補足> 学校給食

生徒会・部活動

生徒の要望を踏まえ、開校後に検討する

学校行事

昼間部と同様に、工夫して実施する

昼間部との交流

文化祭などの行事だけでなく、
日頃の授業での交流も検討する

機能等⑦

項目	工夫（案）	項目	工夫（案）
対象者	北九州市民＋連携自治体は要検討 16歳以上 国籍問わず	日本語指導	日本語での教科学習のため実施
教育内容	習熟度別授業	進路指導	進学や就職を想定し実施
編入学	中2や中3からの入学も可	就学支援	経済的な事情等を考慮し適用予定
入学時期	年2回（春・秋）入学	通学方法	公共交通機関を利用しての通学
進級	本人との面談の上判断	学校給食	開校時は実施しない引き続き検討
修業年限	原則3年 1年ごと延長可	学校行事	昼間部と同様に、工夫して実施
卒業	学習履歴と本人意向を踏まえ判断	昼間部交流	日頃の授業での交流も検討

<まとめ> 設置・運営上の工夫と特徴

令和4年度

- 基本計画（素案） ⇒ 議会報告
- パブリックコメントの実施
- 基本計画の確定
- 整備費、広報費など予算設計
- 関係機関との協議・地元説明

など

今後の取組（予定）

令和5年度

- ・ 関係機関との協議
- ・ 整備予算案・条例改正
- ・ 人員配置・教育課程等の検討
- ・ 広報活動（シンポジウム等）
- ・ 授業体験会～生徒募集

など

今後の取組（予定）